

## 関係性としてのナラティブ ―エコシステムの進化における役割―

青山 竜文

筆者が主に研究しているエコシステムに関する諸論文を見ていくと、時に「ナラティブ (narrative)」という言葉が目に入る。「ナラティブ」とは一般的には「物語」という意味だが、こうした論文ではもう少し積極的な意味が付加されている。

ある論文では、経済学におけるナラティブという用語の論文上での取り扱いを類型化して考察しているが、明確な定義が存在していないのが現状である。

例えばエコシステム関連でナラティブという言葉を用いた論文では、その国の文化特性やネットワークの在り方を「ナラティブ」として区分している。

一方、先般、新たなレポート作成のためにヒアリングを実施した折、海外の研究機関へのインタビュー中に「近時KPIがナラティブ化する傾向がある」との話が出てきた。これは文字通りの物語を意味しているが、同時に「成果を広く伝えるために、画一的なKPI指標ではなく、関係するステークホルダーとの関係や時間の流れをビビッドに示すこと」が重要であると示唆しているのであろう。

定義が存在していないにも関わらず、広く流布する理由として経済学や経営学といった分野以外の影響もその一因ではある（文学理論などの領域ではよくつかわれる用語となる）。

しかし、それだけではなく、「ナラティブ」という言葉を介さないと説明しにくい事象が数多く存在してきたことも流布の一要因だろう。

その一例として文化特性やネットワークの在り方と書いたが、その各々もパーツとして個々に分析していけば、定量的な分析モデルに落とし込みうる。データ諸元がアンケート形式なのか、なにがしかのデータベースからとられたものかなどの違いはあるが、「文化特性が何かに影響する、ネットワークの在り方が何かに影響する」という因果関係を定量化して語ることは可能だろう。

しかし「ナラティブ」という言葉を用いる際には、そうした分析モデルとは異なる、ある種の癖やなまりのようなものを感じる。

例えば大学・研究機関と産業の関係、研究者のキャリアパスの在り方、雇用の広がり、その橋渡しとして

の人材教育などというものは、個々が独立して存在するテーマだが、その各々は単独の事象ではなく、相互に関係しており、その関係性も国によりさまざまである。個々を改善させる施策は、他要素とのバランスやタイミングが大きく関わっている。

そして、ある程度時間がかかったとしても、このバランスがうまく作り上げられた際、周囲に、もしくは次代に伝えうる「ナラティブ」が立ち上がってくる、というのが現時点での理解である。それは、一種のお守りのように、そのシステムやカルチャーに関わる人たを結びつけていく。

自分自身は、エコシステムという言葉で「リスクの相互補完」という経済学的な観点でとらえていた部分がある。2023年に弊所から出した経済経営研究でもそうした形で整理を行った。それは恐らく筆者が関わるライフサイエンスという分野自体で開発プロセスのリスクが大きいので、そのリスク補完をどのように行うかという視点でシステムを見てきたからであろう。実際にファイナンシャルな分野でもアンドリュー・ロー氏の論文群を筆頭にそうした目線は強いものがある。

しかしレポート作成後、さまざまな話をセミナーやインタビューなどで聞くにつけ、リスク補完だけでは説明しきれない感覚を持つに至った。

実際、人が次のステップに動く際に、物語が刺激する局面は少なくない。「ロール・モデル」などという言葉もその一つかもしれない。そこで生じている物語は、構成要素のバランスの揺れに過ぎないのかもしれないが、その揺れの中で地域や産業特有の関係性が生まれ、なにがしかのナラティブを生む。もしそのナラティブがポジティブな要素を多く含んでいれば、次世代の環境整備にもつながっていく、という話だ。

出来上がったエコシステムを評価するだけであれば、リスク補完という言葉で足りるのかもしれない。しかし、エコシステムを進化させるという現実的な取り組みを考えると、こうしたナラティブの果たす役割を視野にいれておくことは不可欠であろうと、現在作成しているレポートを書きながら考えている次第である。

参考文献

Bernd Wurth et al (2021), "Toward an entrepreneurial ecosystem research program," *Entrepreneurship Theoru and Practice*

Sylvia Hubner et al(2021), "Narratives in entrepreneurial ecosystems : drivers of effectuation versus causation," *Small Business Economics*

Andrew W. Lo(2021), "Can Financial Economics Cure Cancer?," *Atlantic Economic Journal* 49, 3–21.